

頑張りすぎていませんか？

障害児をかかえた両親の想い

甲斐 孝
三千野 則

はじめに

私たち夫婦は、五人の子どもを授かりました。そのうち、元気に育ったのは四人です。

次男の康隆は、分娩障害で産まれ、障害児を育てることになりました。当時の医療では治療法はなく、あらゆる民間療法を試しましたが効果はありませんでした。それでも、何か方法があるはずだと信じ、自分たちで治したいという一心から治療法を勉強し、夫婦二人三脚で整骨院を開業し、今に至ります。これまで、数え切れないくらい多くの患者さんを治療し、症状が改善され喜んでいただいています。しかし、我が子を治すことはできず、十七歳八カ月でこの世を去りました。

康隆は、私たち夫婦に多くのことを教えてくれました。

それから、四十年の月日が過ぎました。

私たち夫婦が経験してきたいろいろなできごと、さまざまな心の葛藤、そして、当

時を振り返って今思うことを、一冊にまとめたものがこの本です。

障害児を育てる毎日には、ひとことでは言い表せないほど辛い、心配なものです。将来のことを思うと、不安でいっぱいです。

障害のあるお子さんを持つお母さんをはじめ、ご家族の方に、アドバイスのなことができればと思い、ペンを進めました。実際に体験したからこそ、同じ立場の親御さんに伝えたい、知ってほしい内容です。同じことで悩む方が、何かひとつでもプラスに考えられるようになるためのお手伝いになればと願いながら、一人の障害児を持った夫婦の日々を振り返りました。

この本を読んでいただいた方が、少しでも心を軽くして日々を過ごすことができれば、大変うれしく思います。